

資源株ファンド 通貨選択シリーズ ＜ブラジルリアル・コース＞(毎月分配型)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第80期（決算日2016年7月19日） 第81期（決算日2016年8月17日） 第82期（決算日2016年9月20日）
第83期（決算日2016年10月17日） 第84期（決算日2016年11月17日） 第85期（決算日2016年12月19日）

作成対象期間（2016年6月18日～2016年12月19日）

第85期末（2016年12月19日）	
基準価額	2,264円
純資産総額	74,656百万円
第80期～第85期	
騰落率	37.2%
分配金（税込み）合計	120円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜ブラジルリアル・コース＞（毎月分配型）」は、2016年12月19日に第85期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として世界の資源株に実質的に投資を行ない、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

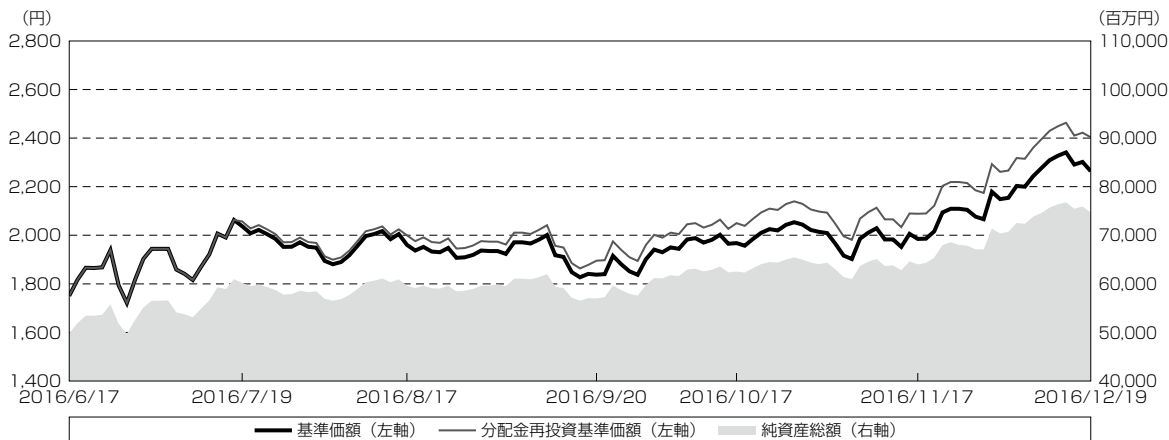
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2016年6月18日～2016年12月19日)



第80期首：1,751円
 第85期末：2,264円 (既払分配金(税込み)：120円)
 騰落率：37.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2016年6月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として世界の資源株に実質的に投資を行ない、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行なっております。また、原則として、ブラジルレアル買い/米ドル売りの為替取引を行なうことで、実質的にブラジルレアル建てで運用を行ないます。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・米国の早期利上げ観測が後退したことや、欧州中央銀行(ECB)による追加金融緩和観測が高まったこと。
- ・米国次期政権による財政支出拡大などによる景気刺激策が、米国の経済成長を加速させるとの期待が高まったこと。
- ・多くのコモディティ価格が上昇したこと。
- ・ブラジルレアルが対円で上昇したこと。

<値下がり要因>

- ・ E C B が金融緩和策を縮小する可能性があるとの観測が強まったこと。
- ・ 米国連邦準備制度理事会（F R B）による2016年内の利上げの可能性が高まったこと。
- ・ 欧州の一部の銀行の健全性に対する懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まったこと。

1 万口当たりの費用明細

(2016年6月18日～2016年12月19日)

項 目	第80期～第85期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 11	% 0.547	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(2)	(0.093)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(9)	(0.438)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受託会社)	(0)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	0	0.006	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷費用)	(0)	(0.003)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	11	0.553	
作成期間の平均基準価額は、1,968円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

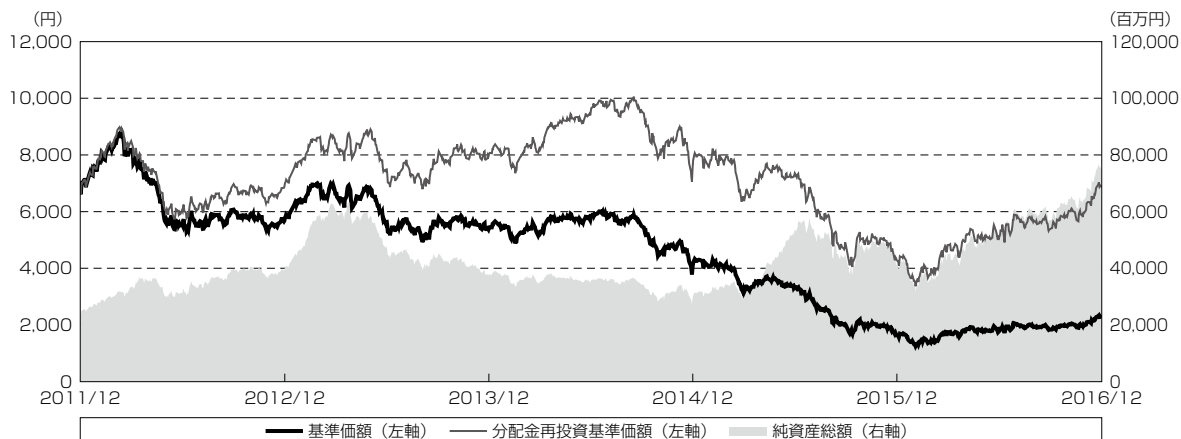
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年12月19日~2016年12月19日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2011年12月19日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年12月19日 決算日	2012年12月17日 決算日	2013年12月17日 決算日	2014年12月17日 決算日	2015年12月17日 決算日	2016年12月19日 決算日
基準価額 (円)	6,800	5,652	5,399	3,785	1,665	2,264
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,200	1,200	1,200	990	260
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	0.6	16.9	△11.7	△38.4	57.9
純資産総額 (百万円)	24,314	39,200	37,705	27,316	41,511	74,656

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2016年6月18日~2016年12月19日)

(株式市況)

期間中の世界の株式市場では全般的に株価が上昇しました。コモディティ価格の上昇などを背景に、資源銘柄および資源関連銘柄の株価は総じて世界の株式市場を上回るパフォーマンスとなりました。

期間の初めの世界の株式市場では、英国の国民投票で欧州連合（EU）離脱が決定し世界経済に対する先行き懸念が強まったことなどから、株価は下落して始まりました。しかし2016年7月以降は、ECBによる追加金融緩和観測が高まったこと、FRBの早期利上げ観測が後退したことなどから戻り基調となりました。また各国の企業業績が総じて事前予想を上回ったことや、堅調な経済指標の発表を受けて米国経済に対する楽観的な見方が強まったことなどから、上昇基調は9月の初めまで続きました。その後は、欧州の一部の銀行の健全性に対する懸念や、ECBが金融緩和策を縮小する可能性があるとの観測が強まったこと、FRBによる年内の利上げの可能性が高まったことなどが要因となり上値が重くなりましたが、米国大統領選挙での共和党候補の勝利を受けて、米国の次期政権の掲げる減税や財政支出拡大による景気刺激策が経済成長を加速させるとの期待が高まったことなどが株価の押し上げ材料となり、期間の初めを上回る水準で取引を終えました。

商品市況については、小麦などの穀物、金や銀といった貴金属を除いて総じて堅調となりました。特に原油や天然ガスなどエネルギー関連の商品や非鉄金属の価格の上昇が顕著でした。

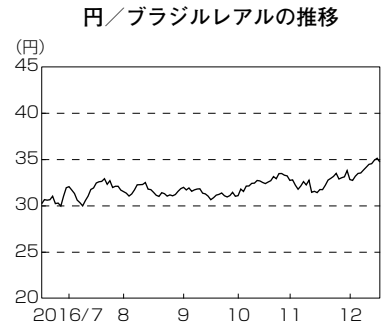
(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.06%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.04%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.25%近辺から、日銀による国債買入れの継続や追加の金融緩和観測などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.40%近辺で期間末を迎えました。

(為替市況)

期間中におけるブラジルレアル（対円）は、右記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

(2016年6月18日~2016年12月19日)

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス)

世界の資源関連株式への投資は米ドル建てで行ない、米国以外の取引所に上場している資源関連株式への投資にあたっては原則としてADR（米国預託証券）を利用しました。

期間中の主な投資行動としては、成長性の高さや魅力的なバリュエーション（株価評価）の観点から米国の金鉱銘柄や、同じく成長性の観点からカナダの総合エネルギー銘柄などを新規に組み入れました。一方、株価の上昇などからバリュエーションの面から投資妙味が薄れた米国の複数の石油・ガス探査・開発銘柄のポジションを解消したほか、発表された業績が事前予想を下回った米国の非鉄金属銘柄などを売却しました。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年6月18日~2016年12月19日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2016年6月18日~2016年12月19日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期	第85期
	2016年6月18日 ~2016年7月19日	2016年7月20日 ~2016年8月17日	2016年8月18日 ~2016年9月20日	2016年9月21日 ~2016年10月17日	2016年10月18日 ~2016年11月17日	2016年11月18日 ~2016年12月19日
当期分配金	20	20	20	20	20	20
(対基準価額比率)	0.972%	1.010%	1.076%	1.006%	0.998%	0.876%
当期の収益	—	—	—	—	—	—
当期の収益以外	20	20	20	20	20	20
翌期繰越分配対象額	4,916	4,896	4,876	4,856	4,836	4,816

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス)

資源ならびに資源関連銘柄の現段階での株価反発局面において、更なる短期的な上昇を牽引するのは市場センチメントではなく、目に見えるファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）の改善の兆候が必要となると考えています。したがって、当ファンドでは現在、投資にあたってより慎重なスタンスをとっています。そのため、収益成長余地やバリュエーション面の魅力度の大きさに裏付けられた投資機会への配分を増やすことに焦点を当てる考えです。

そのような見通しに立ち、強固な財務体質を有し生産成長見通しが良好な質の高い原油生産企業に投資するアプローチを維持する方針です。下振れリスクは低下しているものの、石油輸出国機構（OPEC）の合意の目的が原油価格の大幅上昇を促すことではなく、むしろ在庫の削減やより適切な水準での価格維持にある可能性が高いため、中長期的な見通しに変更はありません。

鉱業セクターへの投資についてもまた、引き続き楽観的な見方をとっています。短期的な逆風要因と経済の変動の大きさがマイナス要因となる可能性はあるものの、より長期的な見通しとしては、関連保有銘柄から高いリターンがもたらされると予想しています。そのため、バルク金属の低コスト生産企業銘柄への投資、銅の価格に対しては中期的に強気の見通し、また魅力的なバリュエーションで取引されている金鉱銘柄への一定割合の投資、という戦略に変更はありません。

世界の資源関連株式への投資は米ドル建てで行ない、米国以外の取引所に上場している資源関連株式への投資にあたっては原則としてADRを利用する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

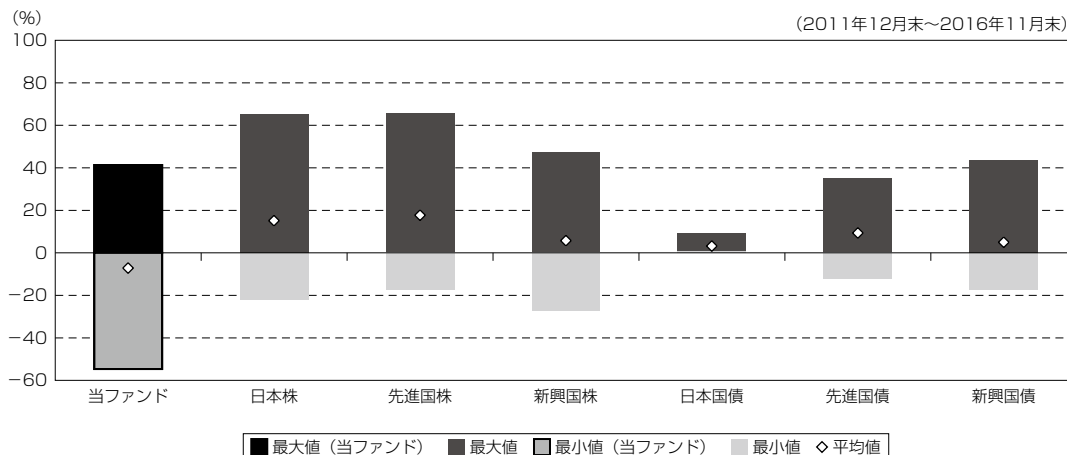
2016年6月18日から2016年12月19日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2009年11月20日から2024年6月17日までです。
運用方針	主として、世界の資源関連企業が発行する株式を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	「ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、世界の資源株に投資を行なうとともに各コースの通貨で実質的な運用を行なう投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざします。世界の米ドル建て資源関連株式（預託証券を含みます。）を実質的な投資対象とします。銘柄選択にあたっては、企業の財務データなどに基づく定量分析と業界内での競争力や経営者のマネジメント能力の評価といった定性分析を実施します。原則として、ブラジルリアル買い／米ドル売りの為替取引を行ないます。
分配方針	毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	41.3	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△54.7	△22.0	△17.5	△27.4	0.5	△12.3	△17.4
平均値	△ 7.2	15.1	17.7	5.7	3.1	9.3	5.0

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年12月から2016年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPMオルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●**東証株価指数 (TOPIX、配当込)** は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●**MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)** は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●**MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)** は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●**NOMURA-BPI国債**は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●**シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)** は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。●**JPMオルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)** は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年12月19日現在)

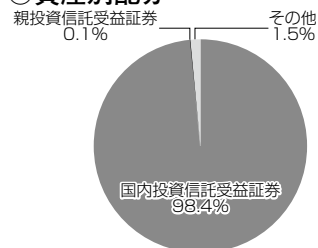
○組入上位ファンド

銘柄名	第85期末
	%
ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス	98.4
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

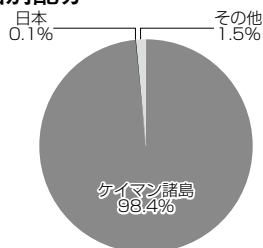
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

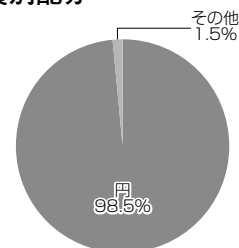
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第80期末	第81期末	第82期末	第83期末	第84期末	第85期末
	2016年7月19日	2016年8月17日	2016年9月20日	2016年10月17日	2016年11月17日	2016年12月19日
純資産総額	60,188,172,694円	59,597,829,486円	57,005,988,815円	62,529,100,682円	64,001,998,641円	74,656,141,124円
受益権総口数	295,458,161,240口	304,022,690,003口	310,179,855,921口	317,657,897,519口	322,465,571,828口	329,725,297,505口
1万円当たり基準価額	2,037円	1,960円	1,838円	1,968円	1,985円	2,264円

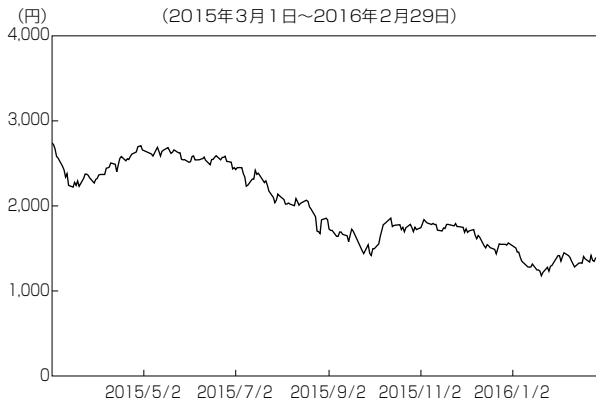
(注) 当作成期間(第80期~第85期)中における追加設定元本額は113,587,320,159円、同解約元本額は68,261,864,905円です。

組入上位ファンドの概要

ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス

【基準価額の推移】

(2015年3月1日～2016年2月29日)



【1万口当たりの費用明細】

(2015年3月1日～2016年2月29日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2016年2月29日現在)

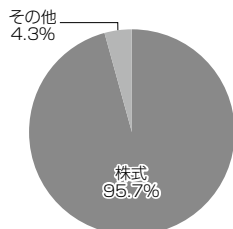
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率 %
1	Exxon Mobil Corp	株式	アメリカドル	アメリカ	4.5
2	Royal Dutch Shell Plc ADR Class A	株式	アメリカドル	イギリス	4.1
3	BHP Billiton Plc ADR	株式	アメリカドル	イギリス	3.9
4	Total S.A ADR	株式	アメリカドル	フランス	3.7
5	Chevron Corp	株式	アメリカドル	アメリカ	3.4
6	Rio Tinto Plc ADR	株式	アメリカドル	イギリス	3.1
7	Monsanto Co	株式	アメリカドル	アメリカ	2.9
8	International Paper Co	株式	アメリカドル	アメリカ	2.8
9	BP Plc ADR	株式	アメリカドル	イギリス	2.7
10	Mosaic Co	株式	アメリカドル	アメリカ	2.5
組入銘柄数				69銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

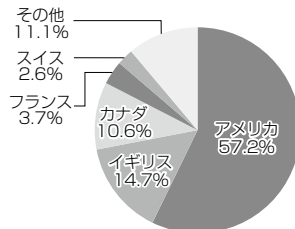
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

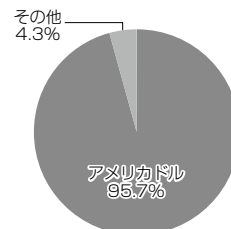
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



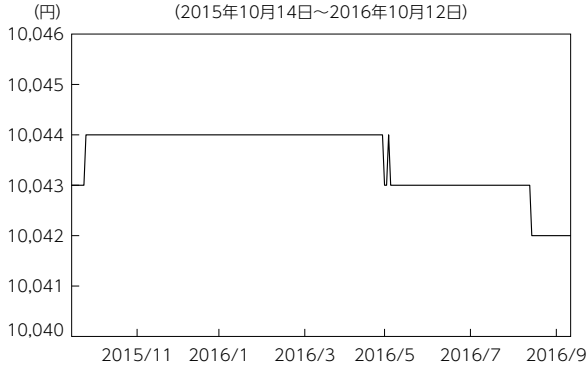
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2015年10月14日～2016年10月12日)



【1万口当たりの費用明細】

(2015年10月14日～2016年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	円 0 (0)	% 0.000 (0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,043円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2016年10月12日現在)

2016年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。